

【 短 歌 。 俳 句 。 川 柳 】

本誌編集室担当

短 歌

老眼の目には見えない地面先

ミクロの世界すずめ啄む

●仙台市 菱沼俊行

飛石の連休体力温存し

除草作業で健康寿命

●富谷市 佐藤英克

街路樹が紅葉できず霜枯れて

素通りされた秋を探しに

●朝霞市 林 則雄

通学路寒波にめげず旗を振る

友に児童が笑顔をくるる

●印西市 山田 明

ほんとうに非道な戦終わらせて

誰もが明日に夢みる平和

●東京都葛飾区 村井正夫

北風に襟首締め霜月の

朝の味噌汁旨さしみわたり

●狛江市 根方一吉

石路は初冬の野路を彩りぬ

行く折々の葉蔭に揺れて

●東京都神津島村 石田希代子

傘さすも遠く秋空陽がさして

うつすら見事虹かかりをり

●平塚市 田中博由

七十路の耳にイージーリスニング

パーシーフェイスが過去に誘う

●笛吹市 沢登清一郎

散り紅葉色とりどりに飾りたる

道祖神様に安全祈る

●福知山市 岫尾 充

胃カメラの苦闘あれから半世紀

今日は平然喉元過ぎる

●香芝市 高田尚昭

小雪舞う深山おろしの山並に

初雪化粧白く霞むや

●愛媛県鬼北町 岸本繁義

俳 句

北の宿妖しき夢や今朝の秋

●神栖市 安澤宏介

山里の湯舟に射すや月明り

●本庄市 入 利雄

戻りて風走るのみ枯野かな

●本庄市 長谷川千鶴子

冬ぬくし三步進む児笑みこぼる

●草加市 長谷部禎子

古希だから逍遥自在小春空

●戸田市 稲田隆博

落葉踏む壊さぬように踊らうか

●戸田市 篠崎志津子

ローカル線走る走るよ稲を刈る

●武蔵村山市 原野晴光

秋終り元の静けさに過疎の村

●塩尻市 大家協治